

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:平成31年 2月19日

事業所名 児童デイサービス事業所「ひかり」 保護者等数(児童数)20 回収数 5 割合 25%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いい え	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	2	2		1		放課後については、一人当たりのスペースも広く、各々自由に動き回ったり、ゆったり過ごすことも出来ています。長期休暇時には、狭く感じる事もあり、外での活動を増やしたり、何箇所かに分かれた活動を行っています。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	1	4				通常は子ども2~3人に1人の職員配置を行い、又利用児の状態、活動内容に合わせて、安全面を考慮し、併設施設に依頼を依頼しています。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	3			2		可能な箇所へは手すりを付ける等、状況に応じて対応しています。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	5					
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	4			1		屋外の活動場所が限られている中で、季節や子どもの状況を見て、行き場所を変えています。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか		2		3		大きな集団が苦手であったり、子ども達の状態を見ていく中で積極的に交流は出来ていませんが、公園や外出先では、状況により地域の子とも達とのやり取りであったり、交流の機会と捉えて上手くコミュニケーションをとれる様関わっていきます。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	4	1				契約時や変更のある際は、説明等行っていますが、より丁寧な説明を心掛けていきます。疑問点や分かり難い事があれば、いつでもお聞きください。
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	4	1				連絡帳や必要に応じて電話や訪問を通して、事業所での様子をお伝えし、情報共有を心掛けていきます。家庭での様子もお聞きし、共通理解のもと支援をすすめていきます。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	4	1				
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	1	1	2		保護者会と合わせて学習会を開催してきました。参加できる方が少なく、保護者同士の連携が支援出来るところまでは至っていません。参加しやすい時間帯や方法を検討していきます。ご協力をお願い致します。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	3	2				苦情解決事業実施要綱に基づいて対応しています。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	4	1				子どもとの意思疎通や情報伝達は、分かりやすい言葉掛けや視覚支援など、個別に合わせた支援を心掛けています。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	5					保護者の方へは、連絡帳にて個々の情報共有、必要に応じてプリントや広報により活動の状況をお伝えしています。
14 個人情報に十分注意しているか	4			1		当法人の個人情報管理委員会が主催する勉強会に参加し、個人情報に関する知識の習得に努めています。	
非常時等	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	2	1		2		現在、作成中ですので、出来次第、説明をさせていただきます。

の 対 応	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	3	1		1	併設施設と合同で年2回の避難訓練を行っています。
満 足 度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	3	2			保護者の方々と情報共有を大切にし、子ども達が楽しく通所出来る様、活動内容の工夫、細やかな配慮を行ってまいります。
	18	事業所の支援に満足しているか	3	2			

\*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

\*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年 2月19日

事業所名 児童デイサービス事業所「ひかり」

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		事務所も必要に応じて解放している。広場も含め、外で過ごす機会も多く作るなど箇所かに分かれて過ごせる様工夫している。	放課後は適切なスペースで過ごせているが、子どもが不調時、静かに過ごせる場所が確保しにくい。子ども達の成長具合や状態により長期休暇等は狭く感じる事もある。
	2 職員の配置数は適切である	4		学校の長期休暇中は利用児が増える為、アルバイトを雇用し対応している。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	3	可能な箇所へは手すりを付ける等、状況に応じて対応している。	トイレは狭く不便さはあるが、設備上改善出来ない。移転時には考慮していく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4		職員会議を実施し行っている。(職員会議は週1回実施)	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		年1回実施し、業務改善に努め、保護者に回答している。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4		平成29年度からホームページで公表している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4		状況を見て、今後検討していく。現時点では、自己評価により業務改善を行っていく。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		原則、1人1回は外部研修に参加することで、年間研修計画を立てている。	
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4		保護者面談や日常で様子を聴き取って、アセスメントを行っている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		ソフトを使用している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	4		現場で作成し、児童発達支援管理責任者が確認している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		屋外の活動場所が限られている中で、季節や子どもの状況を見て、行き場所を変えている。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	2	通常の放課後と休日、長期休暇ではメンバーや活動時間等を考慮し、課題設定、活動内容を検討している。	細やかにと云える程の設定は行っていない。その日の利用児の状態や天候等により変更するなどの柔軟な対応を取り、状況に合わせて支援出来る様、スキルを重ねていく。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		勤務時間等の都合により、全員で打ち合わせを行う時間が必ずとれている訳ではないが、職員会議以外にも支援の振り返りについては、都度気づいた点について話し合い、次の支援に繋げる様意識して行っている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4			
17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4				
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4				
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		児童発達支援管理責任者が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4		学校へ迎えに行った際に、先生と情報交換を行っている。また、学校の連絡ノートを確認している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		4	対象児がいない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4		通園めだか、相談支援センターらふ、市の児童発達支援室等と必要に応じて情報共有、相互理解に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4		卒業後スムーズに移行出来る様、引継ぎを含むサービス担当者会議への出席、必要に応じて保護者の了解を得て、申し送り書を作成し、情報提供を行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		4	公共機関等と一緒に過ごす機会がある時は、うまくコミュニケーションが図れる様、見守りや支援を行っている。	利用児の状態や特性を考慮し、なかなか積極的には行っていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4		地域自立支援協議会の発達支援部会に参加している。また、要請のある関係機関との会議には積極的に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		連絡帳や送迎時に必要な申し送り、子どもの様子を伝え、共有している。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4		年1回程度、保護者を対象にした学習会を開催している。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4		保護者会として組織化していないが、年1回の勉強会を通して会合を行っている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4		苦情解決事業実施要綱に基づいて対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		当法人が年4回発行する広報"ふれ愛"に記事を掲載し、保護者に送付している。	
	35	個人情報に十分注意している	4		当法人の個人情報管理委員会が主催する勉強会に参加し、個人情報に関する知識の習得に努めている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		必要に応じて、メール、電話、訪問を行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている		4	デイの行事としては行っていないが、併設の障害者支援施設の秋まつり等の行事にて行っている。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		4		作成中であり、周知していない。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		併設の障害者支援施設と合同で、年2回実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		当法人が年1回実施する虐待防止・権利擁護に関する研修会に参加している。虐待の防止と対応マニュアルを整備し、職員に配布している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		4		対象児がいない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		4		対象児がいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		ヒヤリハット、事故報告書は、リスクマネジメント委員会で原因、対策を検討している。	